

ITOSUGI



いとすぎの丘



卒業式



入学式

Pick Up

ホームページリニューアル



赤い帯が印象的だった大学のホームページですが、このたび、よりシンプルに本学の特徴を訴えるデザインにリニューアルされました。今回のリニューアルでは写真等で大学の今をわかりやすく伝えてゆきます。ぜひ一度アクセスしてください。



カンボジア国際保健医療支援実習

■ 卒業式、入学式

■ 大学行事

カンボジア国際保健医療支援実習
RCT☆LINK
開学10周年記念式典
日本赤十字社救護員研修

■ 大学の活動

“ナースング・サイエンス・カフェ”によるこそ
日赤学会のご案内
Academic Library
研究の窓

■ Information

修了生・卒業生、新入生のみなさんへ

学長 安藤 恒三郎

東日本大震災および福島原発事故から3年が過ぎました。現在も多くの方が避難生活を余儀なくされていることに心を痛めます。復興事業が継続されていますが、本学の学生は昨年も自ら手を挙げて被災地域で環境回復ボランティア活動に参加しています。「人間を救うのは人間だ」という赤十字の人道精神そのものでした。

大学院修了生・看護学部卒業生のみなさん、卒業おめでとう。みなさんに授与された「修士」「学士」の学位は、みなさんの学業の証です。ここに至るみなさんの努力に心から敬意を表します。修了生のみなさんは、仕事を続けながら研究論文に取り組むという厳しい環境の中で、立派な成果をあげられました。今後それぞれの専門分野の指導者として医療現場等で活躍されることを確信しています。卒業生のみなさんには、私の好きな言葉「誠」を贈ります。誠という漢字は



「言、いう」と「成、なる」から来ています。「言ったことを成す」、文字通り相手を裏切らないということです。社会人1年生の看護師として、ぜひ心しておいていただきたいと思います。

新入生のみなさん、入学おめでとう。大学院生のみなさんは、すでに看護師として立派に社会で活動されています。その多忙な日々の中にも向学心を失わず大学院に進学されましたことに敬意を表し拍手を送ります。

看護学部に入学されたみなさんは、大学入試の厳しい難関を突破して本学の第11回生として見事入学を果たされました。本学は赤十字精神を身につけた看護専門職を育てる大学であり、看護学を通じて生涯を貫く感性・知性を磨き育てる学び舎です。成人病を生活習慣病と呼ぶことを提唱し100歳を超えてなお現役で活躍されている日野原重明医師は、「良い習慣はあらゆる可能性の下準備だ」と述べておられます。大学生活はどうあるべきか自分自身でよく考え、大学生としてぜひ良い習慣を身につけてください。そして、学生生活を充分楽しみ、いろいろな人との繋がりを実感し、人間性に磨きをかけてください。

卒業式



看護学研究科・看護学部 学位記授与・卒業式典



看護学研究科・看護学部学位記授与式



答辞を読み上げる卒業生

修士課程を終えて今思うこと

看護学研究科 第2期修了生 松下 直美

大学院では、本学ならではの国際的視点に立った講義など見聞が広がる楽しさを味わうことができました。一方で、修士論文の作成では、苦労も多く文献検討をしながら自分自身が迷路の中に迷い込んでしまうような感覚を持ちました。論文の提出の間際には、ほぼ徹夜での作業が続き、仕事と学業との両立の辛さに涙が出そうになりました。締切り2時間前、ぎりぎりでの提



出を終えても達成感ではなく、もう少し上手く論文構成ができたのではないかとすっきりしないもやもや感が日々続いておりました。しかし、発表会の当日、安藤学長からは「ここからがスタートです」という言葉をいただきました。また、西片研究科長からは「謙虚な研究者になるように」という言葉をいただきました。お二人の言葉を耳にし、スタートラインに立つための準備期間がようやく終わったのだと気持ちが軽くなりました。これから先、ここで学んだことを活かしながら、謙虚な気持ちで臨床に生かせる研究を続けていきたいと考えています。

お世話になった先生方、苦しい中支えあった仲間たち、応援してくださった全ての方々から感謝申し上げます。ありがとうございました。



4年間を振り返って

看護学部第7期卒業生 柴田 奈緒

4年前の春にこの大学に入學したときに感じたことは、「4年間で、どのような人たちと出会うのだろうか」という期待と「これからやっていくことができるだろうか」、「きちんと勉強して看護師の免許を取得することができるだろうか」という漠然とした不安です。実際に、講義が始まってみると戸惑うことが多く最初から挫折しそうになりました。しかし、友人たちの存在が私の助けになっていました。座学や実習、国試の勉強などを含めてすべてを投げ出



したくなくても、友人たちと互いに励まし合ったり、勉強したり、息抜きで遊んだりすることで、途中で投げ捨てたりすることなく学習を継続することができました。そして、本格的に実習が始まり、学習した知識を実践することでより知識を深め、知識を得ることができました。しかし、実習は何事も上手くいくとは限らず、壁にぶつかることも多くあり、辛くて逃げだしたくなることもありましたが、実習グループメンバーと励まし合ったり、担当の患者さんに励ましてもらったりし、実習指導者、担当教員にも支えられながら行うことができました。

4年間の学習で学んだことは、看護のことだけでなく、何事も粘り強く諦めないこと、周りの多くの人々に支えられていることの重要性です。この4年間で学んだことを決して忘れず、出会った人々に感謝をして、日々研鑽しながら胸を張って次に進んでいきたいと思っています。

入学式



抱いた夢に向かって

看護学部新入生 岸 和奏

私は、看護師を志す者として能力の幅を広げたいと思い災害看護や海外での看護活動を行っている日本赤十字豊田看護大学を志望しました。

現在、特定看護師制度による看護師の医療行為の解禁が検討されています。この制度が施行されれば、看護師に求められる技術力は更に高くなることと思います。しかし、それだけでなく人の気持ちに寄り添えるような人間性も同時に高めていくべきです。

私たちがこれから進む道は、常に人と関わり合い、人のために働いていくものです。そのためには、自分自身がたくましくいなくてはならないと思います。東日本大震災の発生から三年が経ち、なお今も懸命に支援



「新入生誓いの言葉」を代表で読み上げる岸さん

に当たっておられる赤十字の方々や、環境の整っていない海外で活動を行っている方々のように、困難の中でも人の助けになれる人を目指します。

看護師になるという同じ夢を持った仲間達と共に切磋琢磨し、家族や学校関係者の方々に感謝の気持ちを忘れず、これからの四年間を大切に過ごしていきたいです。

カンボジア国際保健医療支援実習

国際保健医療支援実習を終えて

4年生 東田 和歌子

私達は学生17名と教員3名の計20名で、平成26年2月2日から2月9日までの8日間カンボジア王国へ実習に行きました。カンボジア王国では、カンボジア赤十字社やJICAカンボジア事務所への訪問、国立母子保健センターやWHOカンボジア事務所への視察、村歩き（プレイベン州スパイアント郡）などを行いました。また、アンコール・トム遺跡、バンテアイスレイ遺跡、世界遺産アンコール・ワットの見学も行いました。



カンボジア赤十字社訪問



スパイアント郡テクトラーの保健センターにて

これらの経験から、発展途上国における保健活動や医療支援の実際、今後の課題、カンボジア王国の歴史や文化について学ぶことができました。そして、国際保健医療支援活動の中心はその国の人々であり、支援とは何が必要で何ができるのかを一緒に考え、共に実行していくことであると感じました。また活動を行うためには、「何かしたい」という気持ちだけでは不十分であり、知識・技術・コミュニケーション能力などが必要であると感じました。

今回の実習で学んだことを今後に生かしていきたいです。

RCT☆LINK

1年を振り返って

2年生 奥野 碧

この大学に入学してから早くも1年が経ちました。この1年で私はたくさんのことを学び、考え、行動し、慣れない新生活ながらもとても楽しく過ごすことが出来たと思います。

私がこの1年で特に積極的に学んだことは、東日本大震災や防災についてです。夏に東北を訪れ実際に自分の目で被災地の現状を見て、テレビや新聞などの報道では知ることの出来ないものを知りました。また、建物の復興などの目に見える問題だけでなく、復興に必要な資金などの目に見えない問題も震災から3年が経過した今でも山積みになっていることを知りました。そんな被災地の現状を目にして、「自分にも何か出来ることはないのか」と考えました。

そこで、3月8日に豊田市でおこなわれた「とよた防災フェスタ」に参加しました。豊田市内の他大学や高専と協力し、避難時の足場の悪さを想定した積み木を床に置いた場所や担架を運ぶ体験が出来るコーナーを設置した迷路を作成し、体験しながら小さな子供から大人まで楽しみながら防災について学べるような企画



とよた防災フェスタにて来場者のメッセージで完成した木

を実施しました。また、来場者1人1人に一言ずつ、防災に関して思う事を紙に書いてもらい1本の大きな木を完成させました。夏に撮影した被災地の写真なども掲示し、たくさんの方々に見ていただくことが出来ました。

この催しを通じて、防災の大切さや私達が見てきた被災地の現状を多くの人に伝えられたのではないかと思います。また、これを機に1人でも多くの人に被災地に対して興味を深めてくれたらと思います。

これからも、自分の学びを深め、自分に出来ることは何かを考え、1人でも多くの人に防災の大切さや震災についてのことを伝えていきたいです。

Next RCT☆LINK 2年生 榊原開斗さん

開学10周年記念式典

開学10周年記念式典を終えて

研究科長 西片 久美子

日本赤十字豊田看護大学開学10周年記念式典は、平成25年11月30日（土）、本学講堂で行われた。当日は10時30分に全教職員が集合し、安藤学長より、「笑顔でお客様をお迎えしよう」との挨拶で始まった。10時から本学同窓会の設立総会があり、引き続き、卒業生と在校生の交流会が行われた。13時よりフルーツとピアノのコンサートで楽しいひと時を過ごした後、14時から本学教職員、学生、卒業生をはじめ、赤十字関係者、実習施設、地域住民の皆様など326名が出席して記念式典が挙行された。理事長挨拶に続いて、ご来賓の



記念講演会



記念祝賀会

日本赤十字社愛知県支部長神田真秋様、豊田市長太田稔彦様、日本赤十字社病院長連盟中部ブロック代表村林紘二様より、お祝いと今後に向けての期待が寄せられた。

その後、国立長寿医療研究センター総長・理事長の大島伸一先生より、『超高齢社会における医療～「治し支える医療」の実現への提言』のテーマでご講演をいただいた。先生は多くのデータに基づき現在の医療について述べ、今後は看護・介護・福祉の連携と、かかりつけ医から専門医までの連携が重要になること、人々の生活の中に医療があり、医療は人々の生活・人生を支えるものである、ことを強調された。

17時から、会場を名鉄トヨタホテルに移して祝賀会が行われ、終始、和やかな雰囲気であったという間に時間が過ぎ、一日が無事に終了した。ご協力をいただいたすべての皆さまに心から感謝申し上げます。

日本赤十字社救護員研修

日本赤十字社救護員研修に参加して見つけた役割

基礎看護学 准教授 中島 佳緒里

平成25年12月11日から13日の3日間、日本赤十字社愛知県支部主催の救護員研修に参加した。愛知県下にある2病院、3施設から44名と静岡赤十字病院の5名、合計49名の救護員と、サポートする31名のスタッフ、救急隊、警察官、自衛隊員が加わった大規模な訓練である。この訓練に参加した動機は、教員が初めて参加できるようになったことに加え、赤十字社に所属する人間としての保障と、臨床を離れてだいぶ経つ自分に何ができるのかといった自己への挑戦であった。1日目は、机上訓練とトリアージ訓練、2・3日目は様々な実働訓練を体験した。訓練中に与えられた情報は少なく、刻々と変わっていく状況に、効率的に動くにはどうしたらよいのか、出来るだけ多くの傷病者を助けるためにはどうしたらよいのか、その場で考え、行動する訓練であった。

実働訓練の中、気付くと搬送の判断に多くのスタッフが集まっている場面がいくつもあった。臨床判断や処置は、数が充足しているのであれば、医師や現役看護師に任せるのが妥当だろう。では、自分は何をすべきなのか。周囲を見渡すと赤タグの傷病者と心配そうな家族が見えた。「そうだ、経過観察と家族ケアにあたろう。そして傷病者のそばにいよう。」それが、何

dERU (Domestic Emergency Response Unit)
で作った救護所レイアウト



実働訓練 病院シミュレーション



トリアージタグの確認

ができるのか不安を持って参加した自分が見つけた、救護班における役割であった。一方、難しかったのは、赤タグを外すことと家族への声のかけ方である。家族役の学生に「助けてあげられなくてごめんね」そんなことしか言えなかった、何が起きたのか記録だけは残しておこうと思った。どうすればよかったのか納得する答えは未だにない。

3日間の訓練を通して常に考えたのは、自分に何ができて何ができないのか、今何を優先すべきかである。赤十字を背負う者として、災害時にいつものことができるように、学部教育を通して自分自身の看護実践能力を高めていこうと思う。



“ナーシング・サイエンス・カフェ”によるこそ

精神看護学領域 教授 村瀬 智子

皆様ご存知の通り、ナーシング・サイエンス・カフェの目的は、日本看護学会協議会の援助を受け、未来の看護を担う中高校生に看護の科学と素晴らしさを伝えることです。

今回のテーマは、「環境と人のからだとの関係を知ろう!」です。

現代社会において、私達は日常的にさまざまなストレスを心身に受け、その反応として新たな病が生じています。このような病は、広義の環境病と捉えることができます。広義の環境病には、花粉症や食物アレルギー、化学物質過敏症などがあります。

今回のナーシング・サイエンス・カフェでは、日常生活の中で、誰もが気づかずに環境からのさまざまなストレスを心身に受けていることを理解してもらいたいと思います。実際に、軽微なストレスは私達を成長させますが、過度なストレスは心身にさまざまな反応を引き起こし、その結果として、日常生活に困難が生じることもあれば、心の病が発症することもあります。

そこで、まず、ストレスについて少し知識を得た上

で、それらのストレスから自分自身のからだも心もリラックスする方法（リラクセーション）について体験的に学ぶプログラムを準備しました。

まず、はじめに、「環境との関わりの中で生きる人を支援する看護」について模擬授業を行います。その後、ストレスチェックやアロママッサージなど、からだと心を使った楽しい体験にチャレンジします。その過程で、環境と人のからだの不思議な関係と、その関係を理解した上で援助を行う看護のすばらしさを学び合えると思います。

興味・関心を持つことが、看護の学びの始まりです。

多くみなさんとの出会いを心よりお待ちしております。



日赤学会のご案内

学部長 大西 文子

第15回日本赤十字看護学会学術集会を2014年6月14日（土）から15日（日）の2日間、本学を会場に開催

The 15th Conference of the Japanese Red Cross Society of Nursing

第15回日本赤十字看護学会学術集会

学術集会テーマ「看護実践におけるヒューマンケアリング」

会 期：平成26年6月14日（土）・15日（日）

場 所：日本赤十字豊田看護大学 会 長：大西 文子（日本赤十字豊田看護大学）

基調講演 経験型実習・教育はくむヒューマンケアリング
安部 史子 氏（助産師科大学院看護学特設立席准教授）

特別講演 今、語り継ぐ看護のこころ—サイエンスとアートの融合する原動力をめぐって—
薄井 坦子 氏（千葉大学名誉教授・宮崎県立看護大学名誉教授）

教育講演Ⅰ 経験型実習と看護のこころ
立川 幸治 氏（OPホールディングK.K. 代表取締役）

教育講演Ⅱ 医療にかかわる人材育成のためのコーチング
井筒 実子 氏（名古屋第二赤十字病院副院長兼看護部長）

その他 シンポジウム、テーマセッション、「一般発表（口演・ポスター）」、総会、ナーシング・サイエンス・カフェ、懇親会

〒421-8505 電話：0565-3605311
〒421-8505 電話：0565-3605311
〒421-8505 電話：0565-3605311
HP: <http://www.rccyns.ac.jp/jcs15/> E-mail: jcs15@rccyns.ac.jp

されます。日本赤十字看護学会は、赤十字の理念「人道humanity」の精神に則り、21世紀の赤十字の看護の発展に向けて、平成11年に設立されました。日本赤十字看護学会は、全国92赤十字病院の看護師、日本赤十字学園の6大学の看護職などが会員となり、現在では、約1,300名の会員となっています。本学会は、赤十字看護の理念に加えて、看護の理念に共通するヒューマンケアリングを基に、テーマを「看護実践におけるヒューマンケアリング」とし、「看護のこころ」とは何かを語り合いたいと思います。看護の本質を追求してこられた、薄井坦子氏の「今、語り継ぐ看護のこころ—サイエンスとアートが融合する世界を目指して—」の特別講演の他、基調講演や教育講演およびシンポジウムがあります。また、日々の看護の成果をご発表いただく一般の方々の演題は、109題の予定です。学生の皆さんには、学会参加や学会運営へのご協力を是非お願いしたいと思います。そして、「看護とは何か」を学ぶ機会となることを願っています。なお、この学会の運営は、本学教職員の全力挙げて行われることをご報告申し上げますとともに、感謝する次第でございます。

Academic Library

「看護を哲学する」

図書館司書 中尾 明子

当館には右の写真のように看護研究の書籍を多く所蔵しています。開架だけで300冊以上。

看護研究の方法には大別すると質的研究と量的研究がありますが、今回ご紹介するのは質的研究に関する本です。ただし、これは今までのように、質的研究のhow to本ではなく、質的研究成果を紹介しながら、質的



Margarete Sandelowski著、谷津裕子・江藤裕之訳
「質的研究をめぐる10のキーエスチョン」；サンデロウスキー論文に学ぶ
医学書院2013

研究を解題している本です。しかも、とびつきりおもしろく。

質的研究の10論文を、例えば「質的研究で数を扱ってはいけないの?」「結局のところ、質的研究は一般化を目指せないの?」というような章立てで、著者と翻訳者の力でウイットに富んだ文章にして読み進めさせてくれます。実際、サンデロウスキー論文には「aesthetic」という言葉が随所にあるようです。学問と美。サイエンスとアート。全人的な学問といわれる看護学にふさわしい言葉に思えます。

元論文が「Research in Nursing & Health」に掲載されたのは1990年代。日本の質的研究はアメリカより20年は遅れをとっていると訳者のひとりの谷津氏は書いています。その遅れを取り戻すべく、どうぞ手に取ってください。看護研究は哲学する学問ともいえる、そう思わせる本です。



研究の窓

日本赤十字社の歴史

専門基礎 教授 河合 利修

日本赤十字社は創立以来、救護活動をはじめとした様々な事業をおこない、それは文書に記録され、東京港区にある日赤本社に保管されていました。この文書は、昭和49年に明治村に寄贈され、明治村で保管されていました。

本学は平成16年4月に開学しましたが、平成17年1月にこの文書が本学図書館内にある史料室に移され、以来、史料室で保管されています。この文書は、とくに日赤の戦前の歴史を知るうえでなくてはならないもの



日本赤十字社文書

です。そして、日本赤十字学園から助成金を受けて、他学の先生とも共同で文書を用いて研究を行い、その成果は平成19年に東京大学出版会から『日本赤十字社と人道援助』として出版されました。

しかし、日赤の歴史についての研究は奥が深く、まだ始まったばかり、といえます。たとえば、大河ドラマで取り上げられた新島八重が属していたのは篤志看護婦人会という組織ですが、この会の史料はあまり残っていません。第二次世界大戦中の日赤の活動はわからないことが多いです。さらに戦後の歴史はもっとわからず、文書がどれくらいあるのかもわかりません。将来、この文書に興味をもち、研究したい、という人が現れることを期待しています。

Information

平成26年度入学試験結果

学部	入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規格者数	実質倍率	入学者数 ※補欠入学者含む
一般入試		50	486(49)	481(47)	146(7)	3.4	62(2)
センター利用入試		5	210(23)	210(23)	37(5)	5.7	5(4)
高等学校長推薦入試		30	65(5)	65(5)	30(2)	2.2	30(2)
日赤中部各県支部長推薦入試		30	38(7)	38(7)	38(7)	1.0	38(7)
社会人特別選抜入試		5	1(0)	1(0)	1(0)	1.0	1(0)
計		120	800(84)	795(82)	252(22)	3.2	136(15)

大学院	入試区分	定員	志願者数	受験者数	正規格者数	実質倍率	入学者数 ※補欠入学者含む
大学院入試	前期	10	6(1)	6(1)	6(1)	1.0	6(1)
	後期	若干名	2(0)	2(0)	2(0)	1.0	2(0)

※()内は男子学生数再掲。倍率は小数点以下第二位を四捨五入。

イベント情報 (上半期)

○第11回いとすぎ祭○

スペシャルゲストも登場予定!

開催日時:平成26年5月24日(土)

場 所:日本赤十字豊田看護大学内

内 容:各種模擬店、ステージショー、
健康チェック、非常食炊き出し
フリーマーケット・献血 他

○オープンキャンパス2014○

開催日時:平成26年5月24日(土) ※いとすぎ祭と同時開催

平成26年7月19日(土)

平成26年8月23日(土)

参加方法:ホームページ申込みフォーム

もしくは企画・地域交流課0565-36-5228まで

名誉教授称号授与について

石黒士雄氏は、平成11年4月、短期大学時代から本年3月の退任されるまで15年間、教授として看護学生の教育・育成に心血を注ぎ多くの優秀な看護師を排出した顕著な功績に対し、平成26年4月1日付けで本学で初めての名誉教授の称号が授与されました。

平成26年度新任教員

教授	山田 聡子	基礎看護学	助教	酒井喜久子	成人看護学
講師	高橋 由紀	母性看護学	助手	加藤 広美	基礎看護学
講師	山田 恵子	小児看護学	助手	鈴木 優子	老年看護学
講師	初田 真人	精神看護学	助手	野口賀乃子	小児看護学
講師	半田 幸	地域看護学	助手	岩吹 美紀	地域看護学

平成26年度新任職員

事務局次長兼学務課長	森田 高義
経理課主事	永田詩織里
企画・地域交流課主事	石原 豊之
学務課主事	渡辺 達郎

同窓会総会のご案内

5月24日(土) 13:00 日本赤十字豊田看護大学 講義棟大講義室2において同窓会総会を開催いたします。
平成25年11月30日設立後初めての総会となり、今後の事業計画など卒業生、在学生の支援を考えていきます。

●公開講座(前期)のお知らせ

申込方法:ホームページにおいて順次ご案内します。

もしくは企画・地域交流課0565-36-5228までお電話ください。

開催日時	テーマ	内容	開催場所
平成26年6月15日(日) 13:00~14:00	赤十字の看護と新島八重	NHKの大河ドラマのヒロイン新島八重は、日清・日露戦争で傷病者を看護しました。このような八重の人道的な活動と赤十字の救護について、ご紹介いたします。	本学
1回目:平成26年7月12日(土) 13:30~16:30	シリーズ不妊を学ぶ① 私たちがいい選択に向けて ~不妊治療、妻の心・夫の心、 そして夫婦の力~	この公開講座が、ご参加いただく皆さまのこころのサポートとなり、「子どもをテーマにご夫婦で語り取り組む」ことに役立つ好機となればと願っています。また、アロマを用いたマッサージは、ふれあいを通して普段の疲れを癒す時間をもたらしてくれることでしょうか。	

編集 後記

新緑の色増す季節、初夏の風もさわやかな頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか?

さて、来月には本学で、第15回日本赤十字看護学会学術集会在開催されます。市民公開講座では、『赤十字の看護と新島八重』について、NHKの大河ドラマのヒロイン新島八重は、日清・日露戦争で傷病者の看護をされましたが、このような八重の人道的な活動と赤十字の救護について、ご紹介いたします。公開講座だけの入場はどなたでも可能で無料です。

皆様のご参加をお待ちしています。

いとすぎの丘 Vol.19

発行日/2014年5月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学

広報・公開講座委員会、企画・地域交流課



〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33

TEL 0565-36-5228 FAX 0565-36-5256

E-Mail kikaku-ka@rctoyota.ac.jp

HP <http://www.rctoyota.ac.jp/>